マツノザイセンチュウ抵抗性品種開発技術高度化事業（継続）

【平成26年度概算決定額　２６，５００（３０，０００）千円】

事業のポイント

マツ枯れ被害に対応するため、マツノザイセンチュウ抵抗性の効率的な判定技術の確立及びより強い抵抗性を有する品種の開発を実施します。

＜背景＞

・近年、マツ枯れ被害は全国的にみれば減少傾向ですが、東北地方等の高緯度、高標高地域に被害が拡大する傾向にあり、平成２２年度末現在で、北海道、青森県を除く４５都府県において被害が発生しています。

・マツ枯れ被害に対応するため、マツノザイセンチュウ抵抗性品種を開発しており、これまで、マツ枯れの激害地の生存木から種子・穂木を採取し、抵抗性の高いものを選抜することにより、アカマツ２０８品種、クロマツ１１０品種（平成２３年度末）が開発されています。

・今後、被害拡大に対応したより強い抵抗性を有する種苗の開発を効率的に実施することが求められています。

政策目標

より強いマツノザイセンチュウ抵抗性品種を開発することにより、マツ枯れ被害の減少に貢献します。

＜内容＞

マツノザイセンチュウ抵抗性の効率的な判定技術の開発及びより強い抵抗性を有する品種の開発を実施します。

＜委託先＞

民間団体等

＜事業実施期間＞

平成２５年度～平成２９年度

［担当課：林野庁研究指導課］